秩父多摩国立公園昇仙峡の鳥*

中 村 司

序

本国立公園は東京・埼玉・山梨・長野の一都三県に亘る広大な秩父連山一帯を占め総面積約 120 平方キロ、其の主峰は 2595 m の金峰山であるが、此の地域に於ける動物相については、幸い秩父長瀬の博物館に於いて多方面の調査を行い、其の中鳥類については資源研の高田武夫氏が綿密な成果を発表されている。然し西部全域に及んでいる訳ではなく、又従来本地域の鳥について若干の調査はあるがそれらは繁殖期のみであるので著者は西部の一角である昇仙峡約 80 平方キロ一帯の鳥相について述べる事とする。特にこの地域は観光百選第一位として溪谷美を賞讃され多くの関心を集められているので研究同好者の参考に供されれば幸と思う。観察其の他指導について父中村幸雄に負う所が多かつた。なお発表方法はだいたい本研究所報告第 2 号の「三ツ峠四季の鳥相」に準じて行う事とする。

地 勢 及 び 林 相

昇仙峡は花崗岩風景の名勝地として知られており、金峰山に源を発する荒川の流域で奇岩怪石が並び花崗岩中より噴出した柱状節理の輝石安山岩の岩脈があり地質学的にも興味ある地域である。谷の両側の比高は 300 m から 400 m あり最高岩壁約 180 m で林相はアカマツを主とし少数のヒノキ、ホウノキ、クリ、カエデ類其の他の天然林及び人造林であるが仙娥滝より上流は集灰岩となりガラリと変つた風景となる。即ち松林はすつと少なく落葉樹が非常に数を増している。金桜神社黒平を経て木賊峠より増富に亘る間には吉沢、千代田、能泉、宮本、清川の五ヶ村を包含している。新緑盛夏の溪流美殊に紅葉が全溪谷を彩る 11 月は何とも云えない。外羅漢寺山（パノラマ台）太刀岡山等の展望は又一入であつてこの様に相当な広範囲で而も林相地勢に変化をもつので四季の風景上の存在に止まらず鳥界も又多種多様である。

四 季 の 生 物 景 観

春

甲府盆地特有のハケ岳風が何時ともなく消え去り畠の麦が青々と続き初める頃落葉を踏んで山野に踏み入るとツグミが未だ遠近に飛び交つてクィクィと鳴きホオジロが囀声を張り上げる様になる。家の近くで散見されるのがヒヨドリであるがこの頃ジョウビタキ、シロハラ、時にはカシラダカ等の冬鳥も未だ見られる。3 月下旬ともなれば盆地ではもうツバメの飛来したニュースを聞く。溪谷では一番早く春の囀りを響かせるのはやはりミソサザイであろう。ツバメに次ぐ夏鳥には定つてセンダイムシクイがある。3 月下旬から 4 月下旬にチッチョビーを繰返すのがそれである。続いてコサメビタキや北米に向うエゾムシクイ其の他続々南からやつて来る。

* Tsukasa Nakamura: On bird status of Shōsenkyō, Chichibu-Tama National Park.

宮本村にて発見された樹令約 20 年の杉で、樹勢旺盛の生木。約 2 米から 5 米の間に穿孔 19、深さ約 10 ㎞のもの珍らしい例である。

(1950 年 12 月 9 日撮す)

立つ。総ては蕃殖する為にそれぞれ構巢の適所を選択するのである。谷間に響くキビタキやオオルリ更にギチギチと云うヤブサメの声も聞かれる。数百年の樹令をもつ大杉に囲まれ国宝を秘めた金桜神社にはムササビが毎夜横行し、金属性のコノハズクの声が夜の森林に銜し昼はブツボウソウも登場する。左甚五郎の作と云われる「昇り竜」にはトラツグミとオオルリが毎年巢を営んでいる。

この頃川べりのマンサク、キブシ、アブラチャン、ダンコウバイ等が黄色く鮮やかに咲き始め、シジュウカラ、ヤマガラ等の囀が賑かに聞え始める。ハルゼミの声もしけく溪流を飛ぶカワセミの声がチイッと強く聞かれキセキレイが飛翔し乍らギチギチと囀り、オオルリは高い梢に唳々たる美声を続ける。桜の花を追うモンシロチョウやミツバチの姿が絶えず小鳥達も我がもの顔にとび交い、ここに花笑い鳥歌うの様相を呈する。新緑が酣となるとホトトギス、カッコウ、ジュウイチ等の声も流れの音に混つて伝わり松林中をピーチンチンとイスカが鳴き乍ら飛翔するのも見られる。御嶽の夕暮にミゾゴイのうそぶきがするかと思えばトラツグミの不気味な声が夜を圧する。海拔千米以上ともなるとヨーギンヨーギンとエゾハルゼミが鳴き季節の変化を知らせる。谷間の岩に点々と淡紫の美しいツツジが青い水面に映じて趣を添える。アオバズクのポークポークを聞くにつけ愈々新緑の深みを覚える。5 月の始めカジカガエルの声に和し早くもカワガラスが巢

宮本村から更に黒平に行く途中にあるツバクロ岩で以前は毎年ここに数百のイワツバメが営巢したと云うが最近はその数はごく少ない。

(1951 年 1 月撮す)

日増しに陽は強くクヌギの台木にとりどりの昆虫が集る家にあつてはこの頃毎朝早起きの キセキレイが夜明けを告げ、ケツケツと鳴き乍ら溪流を下るヤマセミに起される。不思議にも此のヤマセミは朝は下流に、黄昏には 溪谷の奥に往復することがルーティーンとなつているのだ。6 月に入ると多くの鳥は営巢に暇なく忙しげに巢材や餌を運んで行くけなげな姿が到る所で見受けられる。モズ、チゴモズもあり、オナガも多く殊に本年は数十羽がコロニーをつくつていた。百羽寄れば百羽とも鳴き声の違うクロツグミの声が楽しい。宮本村から黒平に行く途中ツバクロ岩がそそりたつており毎年数百のイワツバメが営巢するが、近年その数は減つている。ピークイとサンバの幼鳥が鳴き乍らとぶのも稀に見かける。

夏

到る所の山々はクリの花で白く彩られ、時にヤマボウシの真白い花が塊に見られる。又溪谷はサワアジサイ・タマアジサイで紫に白い尾を引いたような、ウツギの花も美しい。アマツバメも雨模様の天気にはかなり上空に現れる。谷間に見られる植物には松林に混つてウリカエデ、キブシ、ダンコウバイ、イタヤカエデ、ウラジロ、更に上流へ行くと仙娥滝より林相が変じてナラ、シデ、クリ、カエデ、リョウブなどが多く殊に野猿谷と板敷溪谷の間に聳ゆる中津森のクリ林は有名である。鳥類はもはや停鳴期に入りひつそりと、なりを静めているが抱卵を終え

育雛へと愛情を込めた真摯な活動は続けられている。8 月にかけては鳥相の変化もあまり無く路傍のオトコエジ、オミナエシ、ノリウツギ其の他の花に様ざまの蝶がとび、パノラマ台迄歩を伸すと、ヤマキチヨウも見受けられる。蟬の声がジリジリと一層暑さを増す頃ともなると水場を求めてウグイス、コルリ、メジロ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒガラ、ホオジロ等がやつて来る。水辺に隠れて之らの動作を観察するのも却々面白い。盆地の川縁にはヨシキリ、ヒクイナ等が集まる。盛夏が過ぎると長い間我もの顔に飛び歩いていた夏鳥達もやがて別れを告げ南に帰る時期が到来する。

秋

モズの高鳴きが絹を裂くように聞かれ秋の身に迫るを感じる。イチモンジセセリの渡りが数千ともなく大群をなして西南に行くのが眼につく。コムクドリが羽音高く渡りの準備に余念がなく、アキアカネが到る所にスイスイととび交う。10 月に入れば空は愈々青く、野原にとりどりの花が乱れ咲く。スルデやカエデの類がだんだんと色づき始め、渡りの殿りがキビタキ、ヨタカなどまだ散見されるがそれにも先立ち気の早いジョウビタキがヒー、ヒーと鳴き乍ら冬鳥のトツプを切つて到来する。やがてカシラダカの初渡りの報告を聞く。ツグミ類もシロハラ、マミチヤジナイと今度は冬鳥の顔ぶれが徐々にそろつて来る。シジュウカラ、エナガ、コガラ等の漂鳥は渡りの心配もなく安心して切つた様に群をなして遊んでいる。マガモ、コガモの群が盆地にやつて来た知らせがだんだん多くなってくる。日毎に色づき始めたスルデ、ヤマウルシ、カエデ類等紅葉は真盛りとなる。シベリヤ地方から南へゆく旅鳥の通過はあまり見られないが、メジロ、ヒヨドリ等漂鳥が少しづつ南に移動するのは認められる。盆地に近い片山は数百羽ものカラスの塙となり往ききするカラスの群の被害に農民も悲鳴を上げる程である。キセキレイが鳴かなくなつてもヤマセミはやはりルーテーンを守つて早起きをしている。時にビンズイが松林中の地面に見られ冬鳥の姿がだんだんと殖えて、コゲラの声、カラ類、ツグミ類、ビョーと驚ろかす様な強い声のアオゲラも聞かれ、スキー場等も仲よしのベニマシコ、それにあの美しいトレモロも忘れたミソサザイがチョチョと鳴き乍ら炭焼き小屋を周っている。

冬

猟期に入ると猟師達に駆り立てられキジ、ヤマドリは油断が出来そうもない。クリスマスの月ともなると紅葉は落葉となつてカサカサと落葉を踏む山道からホオジロやカシラダカが飛び出す。冬の休暇を利用し奥まで行けば少い乍らイカルやウソ、マヒワなどが見られる。霜枯の野山の灌木林の中にカヤクグリが「ヒリヒリン」とやつている。雪を踏みしめて山に分け入ると空高く餌をねらつてとぶツミ、エツサイ、ハヤブサ、オオタカ等を見るのもさ程稀ではない。総ての植物は雪にうづもれ冬の眠りに落ち入っているが冬鳥丈は寒々しくも雪の上をゆききし、イワヒバリ、ヒレンジャクの群もかなり見られる年もある。冬山でリスやノウサギに出会いさつと身をひるがえして逃げ、時にはちよつと立ち上つてまごつく様子も興味あるものだ。厳寒とはいえ、風の無い日中等はボカボカと日の当る事はあるが、2 月に入ると又あのハケ岳嵐が猛威を振り総てを砂塵の中に巻込んで仕舞うのである。

各 論

季節別出現鳥類

鳥類の季節的消長を知る為以下春夏秋冬に於ける渡りを主とした分類別にリストを掲げ渡来・渡去期、主なる分布状況及び蕃殖の有無等を明らかにした。

目 名・科 名		種 名	渡来・渡去期 (月)		鳥 棲息 環境	蕃殖期を主とした 分 布 状 況	蕃殖 有無
燕 雀 目 PASSERES							
1	Sturnidae	1 コムクドリ	4下	10中	山 村	パノラマから神社の辺数羽	×
2	Fringillidae	2 ノ ジ コ	4下	10	山 灌木	パノラマ其の他一帯の森林 ハギ, イバラに営巢	○
3	Laniidae	3 チ ゴ モ ズ	5中	9中	山 森	人家の側, 時に滝上	○
4	Campephagidae	4 サンショウタイ	5中	9中	山 村	パノラマや滝上の部落附近	○
5	Muscicapidae	5 サンコウチヨウ	5上	10上	山 森	低地帯の森林, 殊に林	○
		6 コサメビタキ	5上	10上	山 村	東パノラマの外沢をのぞき家の 周辺	○
		7 キ ビ タ キ	4上	10中	山 森	かなり多く, 潤葉樹林	○
		8 オ オ ル リ	4中	10中	山 森	溪谷を中心とした広範囲	○
6	Sylviidae	9 エゾムシクイ	4上 中	9中	亜高山 帯	通過の時のみ春から秋	×
		10 メ ボ ソ	4上 中	10下 11上	亜高森	通過の時で少ない	×
		11 センダイムシク イ	4上	9中 下	山 森	一帯に多い, 早春	○
		12 ヤ ブ サ メ	4上 中	9中 下	山 灌	溪谷に多い	○
7	Turdidae	13 マ ミ ジ ロ	4下	9下 10上	亜高森	神社(地名)の森, 羅漢寺の谷	○
		14 ク ロ ツ グ ミ	4上 中	10上 中	山 森	高町附近(少数)	○
		15 コ ル リ	4上 中	9中 下	山 灌	パノラマ附近に少数	○
8	Hirundinidae	16 ツ バ メ	3下 4上	10上	低 家	部落一帯	○
		17 イ ワ ツ バ メ	4上 中	9下	亜高崖	ツバクロ岩にて蕃殖	○
雨 燕 目 CYPSELI							
9	Micropodidae	18 ア マ ツ バ メ	4上	11上	亜高崖	降雨の際食餌に高空を飛翔	×
		19 ハ リ オ ア マ ツバメ	4下	11上	亜高崖	通過の時まれに見る	×
ヨ タ カ 目 CAPRIMULGI							
10	Caprimulgidae	20 ヨ タ カ	4下	10下 11上	山 森	一帯に多く蕃殖	○
ブツボウソウ目 CORACIAE							
11	Coraciidae	21 ブツボウソウ	5上 中	9上	山 森	金桜神社にて蕃殖	○

目 名・科 名	種 名	渡来・渡去期 (月)	棲息 環境	繁殖期を主とした 分 布 状 況	繁殖 有無
ヒ ス イ 目 HALCYONES					
12 Alcedinidae	22 アカショウビン	5中 9上	山 村	春数回来た事がある	○
ト ケ ン 目 CUCULI					
13 Cuculidae	23 カ ツ コ ウ	5中上 5上中	山 森	パノラマ, 神社より高地にて繁殖	○
	24 ホ ト ト ギ ス	5中下 9上中	山 森	比較的奥地にて落殖	○
	25 ジュウ イ チ	5中下 9上中	山 森	全山に分布	○
	26 ツ ツ ド リ	5中下 9上中	山 森	全山に分布	○
フ ク ロ ウ 目 STRIGES					
14 Strigidae	27 ア オ バ ズ ク	5上 9下	山 村	全般的に分布	○
ワ シ タ カ 目 ACCIPITRES					
15 Falconidae	28 サ シ バ	5上 9下	山 森	松林一帯にて落殖	○
カ ン ロ 目 GRESSORES					
16 Ardeidae	29 サ サ ゴ イ	5上中 10中	通 過	通過のみ	×
	30 ミ ゾ ゴ イ	4中 9中 10	低 森	夕方声が聞かれる	○

計 9 目 16 科 30 種

冬 鳥

燕 雀 目	PASSERES									
1 Fringillidae	1	ア	ト	リ	11上	4 ^上 _中	山 地	各地に見らる		×
	2	マ	ヒ	ワ	10 ^中 _下	5下	山・森	各地に見らる, 渡り遅し		×
	3	オオカワラヒワ			10 ^中 _下	4中	山 地	ごく稀に来る		×
	4	ウ		ソ	10 ^中 _下	4上	山・森	各地に見らる		×
	5	ク	ロ	ジ	10下 11上	不明	通 過	黒平, 増富, で高地なるも近年千田にも居り低地に移動		×
	6	カシラダカ			10 ^中 _下	4中	山 地	吉沢, 千代田, 黒平に多し		×
	7	オオマシコ			10下	3下	山 草 原	黒平にて, 11 月, 12 月に目撃		×
	8	ベニマシコ			10 ^中 _下	4上	山 草 林	かなり多く荒川沿岸で見らる		×
	9	ハギマシコ			10下	4上	山 地	帯那牧場		×
	10	シ		メ	10下	4中	低・山	11 月中旬黒平にて目撃		×
	11	イスカ			10 ^中 _下	4下	山・森	100 羽内外の群を時に目撃		○
	12	ミヤマホオジロ			10 ^上 _中	不明	稀	11 月 4 日吉沢村にて目撃		×

目 名・科 名	種 名	渡来・渡去期 (月)	渡去期	棲息 環境	繁殖期を主とした 分 布 状 況	繁殖 有無
2 Motacillidae	13 タ ヒ バ リ	10中 下	4中 下	低・畑	冬, 畑等特に広い土地	×
3 Bombycillidae	14 キレンジヤク	1上	3下	山・村	主として部落附近に出現	×
	15 ヒレンジヤク	1上	3下	山・村	同 上	×
4 Turdidae	16 ツ グ ミ	10中 下	4上	低・山	一帯に最も多し	×
	17 ハチジヨウ ツグミ	10中	不明	稀	極めて稀, 昭和 8 年 3 月千代 田村帯那にて一羽採集	×
	18 シロハラ	10中 下	4下	山・森	部落附近にて見る	×
	19 ジョウビタキ	10中 下	3下	山・村	かなり多し, 10 月 13 日が渡来 初日記録	×
ワシタカ目 ACCIPITRES						
5 Falconidae	20 チユウヒ	10下	3下	山 地	稀に来る	×
	21 ハヤブサ	10下	3下	山 地	稀に出現	×
ガンオウ目 ANSERES						
6 Anatidae	22 コ ガ モ	9上 中	4下	溪 谷	稀に千代田湖に来る	×
	23 カ ル ガ モ	10上 中	4上	低 地	同 上	×
	24 オ シ ド リ	10中 下	4上	溪 谷	冬のみ, 群で渡来	×

計 3 目 6 科 24 種

漂 鳥

燕 雀 目 PASSERES							
1	Corvidae	1	ホシガラス	11上, 3中	亜高・森	奥御嶽で見らる, 低地では滝川村で目撃	×
		2	カケス	全 期 間	山 地	同 上	○
		3	オナガ	〃	山 地	コロニーをつくり, 冬は盆地に下る	○
2	Sturnidae	4	ムクドリ	〃	低 地	盆地の湯村の方へ下れば見らる	○
3	Fringillidae	5	イカル	11 3	山・森	冬のみ, 木賊峠にて採集	×
		6	コカワラヒワ	全 期 間	低 地	多し	○
		7	ホオアカ	4 10	山・原	川窪スキー場で少数繁殖	○
		8	ホオジロ	全 期 間	山 地	一帯に多く戦後は伐採の為分布が広がる	○
		9	アオジ	10 3	山・森	増富附近, 少数	○
		10	ウソ	10 3	山 地	冬季全地域に少数	○
4	Alaudidae	11	ヒバリ	全 期 間	低 地	片山, 湯村方面	○
5	Motacillidae	12	キセキセイ	〃	低・溪	溪谷一帯に見らる	○
		13	セグロセキレイ	〃	低 地	同 上	○
		14	ビンズイ	11 3	山 地	天神森の附近少数	×
6	Zosteropidae	15	メジロ	全 期 間	山・村	冬少数, 一般に溪谷以外の地域	○
7	Certhiidae	16	キバシリ	10 3	山・森	パノラマ附近	○

目 名・科 名	種 名	渡来・渡去期 (月)	棲息 環境	蕃殖期を主とした 分 布 状 況	蕃殖 有無
8 Paridae	17 シ ジ ウ カ ラ	全 期 間	山・森	分布広し	○
	18 キ ク イ タ ダ キ	10 4	山・森	パノラマ其の他一帯	×
	19 ヤ マ ガ ラ	全 期 間	山・森	広い範囲に分布	○
	20 エ ナ ガ	"	山・森	広い範囲に分布	○
	21 ヒ ガ ラ	"	山・森	広い	○
	22 コ ガ ラ	"	山・森	広いが美林をえらぶ	○
9 Sittidae	23 ゴ ジ ユ ウ カ ラ	"	山・森	広い	○
10 Laniidae	24 モ ス	"	山 地	広い	○
11 Brachypodidae	25 ヒ ヨ ド リ	"	山 地	一帯の部落地方に蕃殖	○
	26 エゾヒヨドリ	10	稀	ごくまれ	×
12 Sylviidae	27 セ ツ カ	5 10	低・原	旧練兵場で蕃殖する	○
	28 ウ グ イ ス	全 期 間	全 域	到る所に見られる	○
13 Turdidae	29 ト ラ ツ グ ミ	"	山・森	広い	○
	30 ル リ ビ タ キ	10 4	山 地	各地にみられる	×
14 Prunellidae	31 イ ワ ヒ バ リ	10 4	山 地	稀に見る	×
	32 カ ヤ ク グ リ	10 4	山 地	森林から道路まで出る	×
15 Troglodytidae	33 ミ ソ サ ザ イ	全 期 間	溪・村	溪谷を中心に見らる	○
ヒ ス イ 目 HALCYONES					
16 Alcedinidae	34 ヤ マ セ ミ	全 期 間	溪 谷	溪谷を毎日上下する	○
キ ツ ツ キ 目 PICI					
17 Picidae	35 ア オ ゲ ラ	全 期 間	山・森	各地に見られる	○
	36 ア カ ゲ ラ	"	山・森	アオゲラよりやや低い声	○
	37 コ ゲ ラ	"	山・森	各地でみられる	○
フ ク ロ ウ 目 STRIGES					
18 Strigidae	38 コ ノ ハ ス ク	5 10	山・森	金桜神社, 千田等にて蕃殖	○
	39 オオコノハズク	11 4	山・森	一帯に多く, 竹やぶに見る	○
	40 フ ク ロ ウ	全 期 間	山・森	下道, いかり村の杉林	○
ワ シ タ カ 目 ACCIPITRES					
19 Falconidae	41 オ オ タ カ	1 2	山・森	稀にみるのみ	×
	42 コ ノ リ ム ハ イ タ カ ♀	全 期 間	山・森	山地に見らる	○
	43 イ ヌ ワ シ	"	山・森	中津森にて蕃殖	○
	44 オ オ ワ シ	1 2	稀	数年に一回程度	×
	45 ク マ タ カ	全 期 間	山・森	吉沢村, 砂山, パノラマにて蕃殖	○
	46 ノ ス リ	"	山・森	千田の杉林中にて蕃殖	○
	47 ト ビ	11 3	低 地	稀に見る	×
20 Pandionidae	48 ミ サ ゴ	1	稀	迷行し, 昭和5年一羽採集	×
カ ン ロ 目 GRESSORES					
21 Ardeidae	49 ゴ イ サ ギ	全 期 間	低・村	通過の時上空を通る	×

目 名・科 名	種 名	渡来・渡去期 (月)	棲息 環境	繁殖期を主とした 分 布 状 況	繁殖 有無
ハ ト 目 COLUMBAE					
22 Columbidae	50 キ ジ バ ト	全 期 間	山・森	到る所に見られ、特に多し	○
	51 ア オ バ ト	5 10	山・森	山地に見られる	×
シ ギ 目 LIMICOLAE					
23 Scolopacidae	52 ヤ マ シ ギ	4 11	稀	通過する時見られる	×
ジュンケイ目 GALLI					
24 Phasianidae	53 ウ ズ ラ	10 4	低・村	稀に出現、近年少し	×
計 9 目 23 科 53 種					

旅 鳥

燕 雀 目 PASSERES					
1 Turdidae	1 ノ ゴ マ	10	稀	昇仙峽にて目撃	×
2 Sylviidae	2 コ ム シ ク イ	11	稀	昇仙峽入口にて目撃	×
シ ギ 目 LIMICOLAE					
3 Scolopacidae	3 タ シ ギ	10 4	溪	沢でみられた、少数	×
計 2 目 3 科 3 種					

留 鳥

燕 雀 目 PASSERES					
1 Corvidae	1 ハシブトガラス	全 期 間	全 域	到る所に居り、片山に罎をつくる	○
	2 ハシボソガラス	"	全 域	同 上	○
2 Fringillidae	3 ス ズ メ	"	村	到る所に多し	○
3 Troglodytidae	4 カワガラス	"	溪 谷	溪谷に多く早く繁殖する	○
ヒ ス イ 目 HALCYONES					
4 Alcedinidae	5 ヤ マ セ ミ	全 期 間	溪 谷	溪谷に二番居り、朝夕上下する	○
ジュンケイ目 GALLI					
5 Phasianidae	6 キ ジ	全 期 間	山・森	山地に分布広し	○
	7 ヤ マ ド リ	"	山・森	同 上	○
	8 コ ジ ュ ケ イ	"	低・村	昭和 6 年 4 月 甲府 愛宕山 から 10 番はなしたものがかなり広く分布し昇仙峽にも近年数番見られる	○
計 3 目 5 科 8 種					

Fig. 3.

Family name	Specie name (in Japanese)	Jan.	Feb.	March	Apr.	May	Jun.	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.
Corvidae	Haashibutogarasu												
	Hashibosogarasu												
	Onaga												
	Hoshigarasu												
Sturnidae	Kakesu												
	Mukudori												
Fringillidae	Komukudori												
	Suzume												
	Ikaru												
	Kokawarahiwa												
Alaudidae	Uso												
	Aoji												
	Nojiko												
	Hoojiro												
Motacillidae	Hooaka												
	Hibari												
Zosteropidae	Kisekirei												
	Segurosekirei												
Certhiidae	Binzui												
	Mejiro												
Paridae	Kibashiri												
	Shujukara												
Sittidae	Yamagara												
	Kogara												
	Higara												
	Enaga												
Laniidae	Kikuitadaki												
	Gojukara												
Brachypodidae	Mozu												
	Chigomozu												
Campephagidae	Hiyodori												
	Ezohiyodori												
Muscicapidae	Sanshokui												
	Sankocho												
Sylviidae	Kosamebitaki												
	Kibitaki												
	Oruri												
	Ezomusikui												
Turdidae	Mebosomushikui												
	Sendaimushikui												
	Yabusame												
	Sekka												
Prunellidae	Uguisu												
	Komushikui												
	Toratsugumi												
	Mamijiro												
Troglodytidae	Kurotsugumi												
	Koruri												
Hirundinidae	Nogoma												
	Ruribitaki												
Micropodidae	Iwahibari												
	Kayakuguri												
Caprimulgidae	Misosazai												
	Kawagarasu												
Coraciidae	Taubame												
	Iwatsubame												
Alcedinidae	Amatsubame												
	Harioamatsubame												
Picidae	Yotaka												
	Bupposo												
Cuculidae	Akashobin												
	Yamasemi												
Strigidae	Aogera												
	Akagera												
Falconidae	Kogera												
	Kakko												
Pandionidae	Tsutsudori												
	Juichi												
Ardeidae	Hototogisu												
	Fukuro												
Anatidae	Aobazuku												
	Konohazuku												
Columbidae	Okonohazuku												
	Otake												
Scolopacidae	Konori & Haitaka												
	Inuwashi												
Phasianidae	Owashi												
	Kumataka												
Scolopacidae	Nosuri												
	Tobi												
Scolopacidae	Sashiba												
	Misago												
Scolopacidae	Goisagi												
	Sasagoi												
Scolopacidae	Mizogoi												
	Kogamo												
Scolopacidae	Karugamo												
	Oshidori												
Scolopacidae	Kijibato												
	Aobato												
Scolopacidae	Yamashigi												
	Tashigi												
Scolopacidae	Kiji												
	Yamadori												
Scolopacidae	Usura												
	Kojukei												

Table 1

	Class. Month	S.	W.	M.	R.	T.	Calculated every month	Calculated four seasons
Spring	{ 3	1	4	42	8	0	55	199
	{ 4	18	7	38	8	0	71	
	{ 5	30	1	34	8	0	73	
Summer	{ 6	30	0	35	8	0	73	219
	{ 7	30	0	35	8	0	73	
	{ 8	30	0	35	8	0	73	
Autumn	{ 9	30	0	35	8	0	73	222
	{ 10	3	18	44	8	0	73	
	{ 11	3	22	43	8	0	76	
Winter	{ 12	0	21	42	8	0	71	225
	{ 1	0	23	46	8	0	77	
	{ 2	0	23	46	8	0	77	

Legend: S=Summer bird W=Winter bird M=Migratory bird R=Resident bird
T=Travelling bird

Table 2

Order name	Family name	Appeared in Honshu	Appeared in Yama- nashi	S.	W.	M.	R.	T.	Nos. of Breeding	Nos. of appeared
PASSERES	Corvidae	8	6			3	2		4	5
	Sturdidae	3	2	1		1			1	1
	Fringillidae	38	23	1	12	6	1		8	20
	Alaudidae	4	1			1			1	1
	Motacillidae	7	6		1	3			2	4
	Certhiidae	1	1			1			0	1
	Sittidae	2	1			1			1	1
	Paridae	9	6			6			6	6
	Laniidae	4	3	1		1			2	2
	Bambycillidae	2	2		2				0	2
	Brachypodidae	2	2			2			1	2
	Camperhagidae	1	1	1					1	1
	Muscicapidae	8	7	4					4	4
	Sylviidae	16	10	4		2		1	4	7
	Turdidae	19	17	3	4	2		1	4	10
	Prunellidae	3	2			2			0	2
	Troglodytidae	2	2			1	1		2	2
	Hirundinidae	5	4	2					2	2
	Micropodidae	2	2	2					0	2
CYPSELI	Caprimulgidae	1	1	1					1	1
CAPRIMULGI	Coraciidae	1	1	1					1	1
CORACIAE	Alcedinidae	4	3	1		1	1		2	3
HALCYONES	Picidae	9	5			3			3	3
PICI	Cuculidae	4	4	4					4	4
CUCULI	Strigidae	10	6	1		3			3	4
STRIGES	Falconidae	20	19	1	2	7			4	10
ACCIPITRES	Pandionidae	1	1			1			0	1
GRESSORES	Ardeidae	15	9	2		1			1	3
ANSERES	Anatidae	40	24		3				0	3
COLUMBAE	Columbidae	5	2			2			1	2
LIMICOLAE	Scolopacidae	41	31			1		1	0	1
GALLI	Phasianidae	9	6			1	3		3	4
Total										
14 orders	32 families	296 spp.	211 "	30 "	24 "	52 "	8 "	3 "	66 "	116 "

Legend: S=Summer bird W=Winter bird M=Migratory bird R=Resident bird
T=Travelling bird

(註) 渡来, 渡去の○印はその月のみ出現の意。Table 1 は月別及び季節別に出現鳥数を示したもので消長を知る事が出来る。Figure 1 は Table 1 を図示したもので明瞭に知る事が出来る。Figure 2 は目, 科, 種数を更に季節の渡り別にグラフを書いたもので漂鳥数が最も多い事がわかる。Table 2 は出現, 蕃殖鳥数を全部の科に亘つて記入したもので渡り別の鳥数も知る事が出来る。Figure 3 は全種類の出現期間を棒グラフで表わしたもので比較するに都合がよい。

結 語

以上述べて来た様に昇仙峡の鳥相は地勢林相に関係してかなりの変化が見られる様であるが渡り別の表で示した様に種類が限定されているのである。事実之は第 1 表 及び 第 3 図に見られる様に漂鳥の数が非常に多く, 之に反して冬鳥が少なく殊に旅鳥が殆どない状態である。前者の理由は恐らく大きな湖沼がなくカモ類の渡来がない事に原因し又後者は調査地域が夏鳥冬鳥特にシギ等旅鳥の渡りの径路になつていない事が最も大きな原因であると考え。之は先般発表した三ツ峠には附近に大きな湖をもち又日本随一の蕃殖地を持つ富士山をひかえている為更に渡りの径路になつている点等から興味深く比較する事が出来る。この様に三ツ峠よりも地域はかなり広範囲に亘っているにもかかわらず種類の少ない事は如何に鳥の分布が地理及び地形に依るかを知らされるのである。然し本地域の特徴は溪谷を持つている事であつてコマドリ, オオルリ, ミソサザイ等の如き溪谷の鳥がポピュレーションに於ても多い所にあると結語する次第である

Résumé

Mitake Shōsenkyō, western part of Chichibu-Tama National Park in Yamanashi Prefecture is well known to people for its beautiful view of valley.

The author completed a research of bird status of this district throughout the year by many years investigation. He has described the general survey of bird status. The list shown not only the coming and leaving of birds in each season, but also their distributions and breeding conditions. Tables and figures are more clearly explained in the above mentioned list.

He concluded that Shōsenkyō has abundant numbers of migratory birds and also comparatively large numbers of valley birds, while it has no passage birds because of its geographic location.